

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600027		
法人名	株式会社 ナックス		
事業所名	グループホーム めくもりの家 揖斐		
所在地	揖斐郡揖斐川町島291-1		
自己評価作成日	平成27年6月19日	評価結果市町村受理日	平成27年8月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2192600027-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 んふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年7月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広がる緑に囲まれて変わりゆく四季を利用者様と職員が共に感じられる環境を生かし、安心して穏やかに生活できるよう支援しています。介護においてもレベルアップが図られるよう、4施設合同の研修会にも力を入れています。職員一人一人においてもキャリアに合わせた研修に参加し知識の向上に努めています。また、このめくもりの家を人生最初の住家として選択したことに、ご本人様、ご家族様が満足して頂けるよう職員一同心一つにして努力致します。お元気な時から最期の時まで寄り添い、ご家族、医師と話し合いながら利用者様にとっての最善を考えた温かいケアを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の前方に、皆が慣れ親しんだ池田山が見渡せ、自然豊かな環境である。広い前庭では、法人の4グループホーム合同で、住民も参加する交流会を定期的で開催し、その成果を事業運営に反映させている。職員は「今、できることを提供する」をモットーに、一人ひとりの生活歴や価値観を大切に、ニーズに沿ったサービスを提供している。そして、個々の気持ちに寄り添うケアで、安心して、穏やかに生活できるように取り組んでいる。終末期の看取りは、数例行っており、家族が泊まり込み、手を握って最期を迎えることができるように、真心を込めて支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも再確認ができるよう名札の裏に記載してある。年度初めの全体会議や朝のミーティングで理念を共有し、利用者様と信頼関係を深められるよう実践している。また、管理者を中心に現場で理念に沿えるような言葉かけをしている。	理念は面会室に掲示し、全職員の名札の裏にも記載をし、毎朝のミーティングで、その意義を確認し合っている。利用者とは、言葉づかいや接遇などを通して、信頼関係を深め、その人らしい暮らしに繋がるよう実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民として地域主催の行事、奉仕活動に積極的に参加している。地元のスーパーや近所の店を利用したり、併設の接骨院の常連客と交流している。家族交流会では、地域のグループが催しをしていただき会を盛り上げて下さっている。	地域交流の一環として、福祉フェスティバルに参加し、利用者の作品を展示している。また、地元の中・高生の職場体験を毎年受け入れている。普段から、住民が野菜や花を持って訪れたり、地域のグループの訪問を受けるなど、地域との様々な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも介護相談を受け付けている。運営推進会議、地域ケア会議で活動報告や介護支援等現状報告を行い、意見を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	揖斐・島合同で隔月に会議を開催している。高齢福祉課・区長・民生委員・利用者様家族に参加して頂き、近況報告を行っている。皆様より意見を頂き、少しでもサービスの向上が図れるよう努めている。	会議は、隔月に開催し、近況報告や情報交換を行っている。参加者からの要望で、事業所についての説明や報告をしたり、認知症に関する相互理解を深める場ともなっている。毎回、会議での多様な意見を話し合い、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	揖斐川町主催のケア会議や研修に参加し、他の施設の方と交流、意見交換している。定期的にパンフレットを持って行き、入居の紹介を頂けるよう努めたり、紹介頂いた先に現状報告したりしている。	行政が主催するケア会議や、研修会に参加をしている。介護保険に関する相談でも、適切な助言を得て良好な関係ができています。地域包括支援センターからは、利用者の紹介を受け、待機者情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の全体会議において研修を行い、周知徹底に努めている。緊急時やむを得ない場合は、施設長・利用者様ご本人・ご家族に説明し、同意のもと慎重に行っている。	身体拘束をしないケアを徹底している。また、言葉による拘束「スピーチロック」についても、具体的な行為を学んでいる。利用者が戸外へ出たい時は、制止をせず、寄り添いながら気晴らしできるように努め、また、点滴の際は、看護師が付き添い、終わるまで見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の全体会議において研修を行い、事例をもとに検討し、再確認している。職員が余裕を持って働けるようお互い協力し、ストレスをためない環境作りをして防止している。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家 揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	職員の全体会議において研修を行い理解している。実際に制度をご家族に紹介し、活用されている方もみえる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、施設利用にあたっての重要事項等十分時間をかけて読み合わせと説明を行っている。不安や疑問にも納得されるまで説明して応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族のご意見・要望は、電話・面会時・近況報告時等に気軽に伝えて頂けるよう配慮している。またケアプラン更新時に意見書を出していただき要望等を把握している。外部評価で行われたアンケート結果について職員全員で意見交換を行い、ホームの運営向上に努めている。	本人の近況報告書を家族に送り、意見を聴いている。報告には、排泄の様子や暮らしぶりなどを伝え、相互理解に努めている。さらに、家族の訪問時や交流会などで、意見や要望を把握し、運営に反映させている。	利用者、家族が、気軽に思いや意見、苦情などを表せる機会をできるだけ多く設け、家族との距離感が、さらに近づくように、個別に話し合う取り組みにも期待をしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている全体会議にて職員より意見書を提出してもらい、話し合いの場を設け改善している。些細な悩みにも耳を傾け、職場の環境作りにも反映している。	職員会議は、毎月、職員の提案した議題に沿って行っている。管理者は、職員が要望や意見を言いやすい環境づくりに努め、職員の悩みなどを聞きながらコミュニケーションを図り、勤務体制に配慮して、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の能力に応じ適材適所に分担し、向上心を持って取り組めるよう配慮している。勤務時間を職員の要望に応じ、家庭生活と両立できるよう考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の知識向上レベルアップを念頭に考え、能力・年数に合わせて積極的に研修に参加するよう努めている。昨年の研修についてアンケートを実施し皆が学びたい内容を施設内研修に取り入れている。毎月スキルアップ勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	揖斐川町主催の研修や協力医療機関の勉強会に参加し、他の施設職員とコミュニケーションを図っている。褥瘡の処置、嚥下テストなど講習を受け導入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族・ケアマネから情報をもらい、ご本人が不安にならないよう対応している。また、事前に面談し必要な対策はないか検討し、職員全体が情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学され、アセスメントをとりながらご家族の悩みをできるだけ理解して、どのように支援していけるか考えられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族を支援していくうえで必要とされた際、関係機関と連絡を取り合い、サービスを提供できる体制を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員が同じ認識を持ち、一方的に行うだけの支援にならず気持ちを支え合える生活に努めている。また、普段より気軽に話せるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居説明時より、ケアプランを一緒に考えていける関係作りに努めている。普段の生活を知ってもらえるよう面会時に様子をお伝えしたり、近況報告を郵送したり、家族交流会を開いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出する時に馴染みの場所へ立ち寄ったり、友人の来訪時に昔話や、同郷の話で盛り上がったたりしている。また、ゆっくり気兼ねない時間を過ごせるように面会室の提供やお茶菓子をだしたりなど工夫している。年1回は家族会を地域交流も含めて開催している。	親戚や兄弟、遠方から家族の訪問があり、面会室で誕生会を行うなど、楽しくゆっくりと過ごしている。また、利用者が、隣接の接骨院に通う住民と顔なじみになり、その住民から訪問を受けるようになるなど、新たな馴染みの関係が継続できるよう、職員は支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格や人生観から、部屋替えやテーブル分けを行い、利用者様同士がコミュニケーションを図りやすくしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方に面会している。また、入院時の衣類の洗濯や心身の状態の把握をしたり、ご家族の今の状況を考えて支援できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別対応では、ご本人の希望、意向を把握し、職員同士共有している。意思表示困難な方はご家族から得た情報やご本人の表情や行動をもとに利用者本位の支援となるよう努めている。	利用者の日々の様子や会話から、思いや意向を把握し、職員間で共有している。意思表示が困難な人は、表情や視線から思いを推し測り、声かけをし、本人の得意なこと、やりたいことに寄り添い、穏やかな表情で暮らせるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期段階だけでなく、継続的にご本人ご家族から情報収集を行い、アセスメントに記入している。それらを理解しその人らしさを尊重できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの個人を大切にその方の性格、病状、症状などリスクを把握し、ご本人様が最も心穏やかに生活できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は介護記録にもあるケアプラン目標を意識し、モニタリングを行っている。ご本人に必要なケアをご本人、ご家族、協力医療機関と連携を図り相談しながら計画、作成している。介護記録簿を利用して毎日モニタリングができるように工夫している。	介護計画作成では、職員の意見や気づきを反映させている。さらに、医師や関係者の意見を盛り込んでいる。目標の達成に向けて、毎月モニタリングを行い、歩行や心身の状態を維持し、その人らしく暮らせる計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、介護サービス実施記録簿にその日の様子やケアプラン目標に対してのモニタリングを行っている。特記や身体状況も細かく記入し、後日でも理解しやすい様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族のニーズに対応できるよう、各職員の能力を生かせる職場となっている。また、外出、レクリエーションに加え、クラブ活動を行いより楽しみを持てるよう努めている。併設の接骨院の利用も希望に応じて行っている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家 揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を取り入れ生活できるよう支援している。地域の祭りや行事に参加したり、子供会の子供達の慰問、地元のスーパー、公園に行ったりして楽しみが持てるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の希望を伺い、個々に入居前のかかりつけ医の継続をしている。協力医は月2回の往診があるが、体調変化時は迅速に連携をとり医師の指示を仰ぎ、医療が受けられるよう支援している。また受診は原則対応であるが、希望や依頼がある時は職員が担っている。	利用者のほとんどが協力医で受診をしている。24時間の連携体制をとって体調管理を行い、医療情報、受診結果等を、家族と関係者で共有をしている。協力医の往診は、月に2回あり、緊急時の連携を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調管理を中心に表に記し把握に努めると共に、些細な気になることはその都度看護師に相談している。また主治医と連携をとり迅速な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時必ず介護サマリーを作成して情報提供し、質問にも応じている。入院中も面会して容態を確認し、ご家族やソーシャルワーカーにも状況を伺って、退院後も受け入れられるように努めている。また、退院時ケアカンファレンスや病院主催の研修にも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化・終末期・看取りの方針を説明し、同意を得ている。早めにご本人・ご家族・主治医・関係者でカンファレンスを行い、ご家族の希望に沿った支援を協力医と連携を図りながら行っている。	重度化や終末期の支援体制を取り、実践をしている。入居時に、本人・家族に説明し、利用者の状況に応じて、主治医、関係者と共に、早い段階から話し合いを繰り返し、安心して終末を迎えることができるよう取り組んでいる。	今後も、家族の加齢や心情、家庭状況等の変化に配慮をし、本人や家族の意向も含めて、話し合いの継続に期待をしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えて職員全体会議で定期的に研修を行い、迅速な対応ができるよう努めている。利用者様それぞれの情報を随時確認しリスクを把握し、普段より備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間も含め、消防署の方の指導のもと避難訓練を行っている。地震・水害も想定し避難場所や連絡網、地域の方との連携方法等勉強会を実施している。	災害訓練は、年に2回、消防署立ち合いで行っている。夜間の職員配置を想定した避難訓練も行い、備蓄品は、数日分の必要量を確保し、地域との協力体制を整えている。	地震を始め、様々な災害に備え、避難誘導方法の再確認をし、災害時に、すぐに駆けつけることのできる職員体制や時間の把握など、自主訓練と実践力の向上に期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の生活歴をアセスメントし、性格等把握したうえで、人格を尊重した言葉かけや対応をしている。個別ケアでプライバシーに配慮し、心穏やかに笑顔で生活して頂けるよう努めている。	個々の生活歴を把握し、好みや価値観を大切にしながら、誇りを損ねない声かけや対応に努めている。耳の遠い人には、ジェスチャーや筆談で職員の意思を伝え、その反応を受け止め、内容を職員で共有し、穏やかな笑顔で暮らせるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のコミュニケーションを通して利用者様の希望を伺ったり、自己決定しやすいよう選択してもらえるよう努めている。自己決定が困難な方は表情や行動から判断するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの思いや習慣を大切に、その人らしい一日を送れるよう支援している。また、他者、外部との関わりも大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に身だしなみ、衣類等利用者様と楽しみながら確認し、一日を気持ちよくスタートできるよう努めている。美容師の免許を持っている職員が、ご本人の要望に合わせてカットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム内の畑へ行き、その季節に収穫できる野菜を採り、皮むき、筋取り等して頂いている。食への楽しみや関心が高まるよう支援している。毎食手作りの温かい食事が提供できるように努めている。	自家栽培の野菜を、利用者が一緒に収穫し、皮むき、筋取りなども手伝っている。献立は、その日の食材によって、利用者の食べたい物を、調理に取り入れ、食べる意欲につなげている。利用者と職員が同じテーブルを囲み、楽しい食事を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師・栄養士・介護士が協力し、各個人に合った形態・カロリー・水分量を計算しながら提供している。またメニューにとらわれず、嫌いな物がある方には代替えを提供し、不足しないよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さや重要さを念頭に、職員の声かけのもと徹底している。出来ない方には個別に義歯の手入れ、うがい等支援している。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家 揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を作成して排泄の周期をつかむなど個別の特徴を把握し、ペースに合わせて自力で排泄できるよう支援している。排泄の失敗ではテキパキと介助すると共に、フォローの一言も忘れないで付け加えるよう努めている。(老化に伴って誰にでもある。)	排泄パターンや利用者のサインを把握し、さりげない声かけ、トイレへの誘導を行い、排泄の自立を支援している。排泄の失敗が減少し、笑顔が増え、トイレでの排泄がスムーズになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録を付け、個々の身体を理解し、運動または乳酸菌や繊維質の多い食品によって排便を促したりしている。便秘が改善されない場合は主治医と相談し、薬を処方して頂き対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は食事同様楽しみの一つであり、プライバシー配慮(安全確認)、お湯の温度(水位)、入浴時間等細心の注意を払っている。重度者には清拭を行い、心地良さが実感できるよう支援している。	入浴は、昼間や夕方など、本人の希望に合わせて支援をしている。自宅で使っていた石鹸とシャンプーなど、馴染みの物を使い、安心して心地よい入浴を楽しんでいる。拒否の人には、促し方を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠は健康を維持するうえで欠かせないものなので、よく眠れているか、昼夜逆転や体調の急変はないか、巡視時に確認し、安心できる声かけ等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や用法容量について理解し、服薬できたか職員がチェックをし、記録を行っている。月2回の定期往診の際、病状の変化を主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を考慮し、洗濯たみ・庭の草取り等やっけて頂いている。また気分転換に散歩や喫茶店に行ったり、レクリエーション等楽しみごとの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	テラスで外気浴をしながら昔懐かしの歌や童謡を歌い楽しんで頂いたり、散歩を取入れしている。なじみの場所にドライブや外食、神社や公園にも出かけるよう努めている。希望により個々に外出対応をしている。	毎日、周囲の散歩やウッドデッキで外気に触れている。近所のスーパーマーケットへの買い物や、寺社への参拝、ドライブへは、個々の希望に応じている。年間の行事で、花見や紅葉狩りなどへ出かけている。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家 揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で理解できる方は自己で管理して頂き、外出の際等に使用している。また、管理できない方は小口資金としてお預かりし、希望があれば使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等の交流を大切に、個々に合った電話・手紙の対応を支援している。年末には年賀状を一緒に作成したりしている。また、個人情報が出れないよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が心地良く過ごして頂けるよう季節の花を飾り、四季を感じてもらえるような工夫をしている。また、懐かしい曲を流し、くつろいで頂けるよう支援している。自室はなじみのある家具や置物等で落ち着いた居室作りを家族と一緒にやっている。	ホーム内に、懐かしい音楽を静かに流している。廊下とコーナーに、椅子やソファを置き、一人でも過ごせる場を備え、食卓の高さは、個々の背丈に合うように工夫をしている。季節の花を要所に飾り、居心地のよい空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはお好きな場所で過ごして頂けるようテーブルやソファ、座りやすい椅子等を用意し、一人ひとりが落ち着いて過ごして頂けるよう配慮に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が心地良く過ごして頂けるよう、ご本人とご家族の要望を取り入れ一緒に居室作りを行っている。また、家具の配置は安全第一に考慮して生活して頂いている。	居室のベッド、タンスやテーブルは、備え付けである。本人の好みや個性に合わせて配置し、他の家具類も、使いやすいよう配置に工夫をしている。家族に協力してもらい、自宅に近い雰囲気、落ち着いた居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全に生活できるよう施設内はバリアフリーになっており、浴室・トイレ・廊下等にも手すりが整備されている。また、認知症の混乱、失敗を招くことのないようトイレには分かりやすいように目印が書いてある。		